
おとぎの国のアリス

BAMBi(` ・ 3 ・ ´)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おとぎの国のアリス

【Nコード】

N5673H

【作者名】

B A M B i (. . 3 . .)

【あらすじ】

放課後教室で補修を受けていたアリス達。そこに一匹の猫が現れて…。

第一話

「…山！ 神山！！」

私はその声に起こされた。

アリス「何よ、たかちゃん。」

高野「教師をたかちゃん呼ばわりするんじゃない！！！！」

アリス「はあ？？ いつもたかちゃんって呼んでるじゃないのよ！」

高野「今は授業中だっ！！ っていうか、お前なあ、授業中に寝るんじゃない！」

アリス「寝てるの私だけじゃないってば。」

高野「…はあ？」

アリス「うららと祐も寝てる。」

高野「…二宮、ほら、起きるんだ。授業中だぞ。…土屋！ おい、起きろ！！！！」

はあー。たかちゃん、またうららだけひいきしてる。

あ、私の名前は神山アリス。中学1年生。

え？ ああ…。そうね、私は確かに、この1 - Aではちょっとした問題児。

遅刻したり、授業中寝たり、授業サボったり。

毎日のように補修に出させられるし。

ま、ほとんど出たことないけど。

そして、今まで寝てた二宮うららと土屋祐は、私の心友！ というか、悪友かしら？

うららは、たかちゃんこと高野隆のお気に入り生徒。

同じことをしていても、うららだけは許すのよ、たかちゃんは。

そういうのって、最低。

土屋祐は、毎回私と一緒に補修に出ると言われるメンバーの1人。

まあ、私と祐しか出るなんて言われないけど。

高野「全く、神山と土屋は今日の補修に出ること！」

祐「はあ！？　なんでだよ！　うららだって寝てただろ？　そういうのって、ひどくねえか！？」

アリス「そうだよ、たかちゃん。ひいきって、教師にとって最低な行為なの。知ってた？」

高野「うるさい！　二宮はいいんだよ。」

うらら「高野。私も補修出る。いいでしょ？」

高野「え？　…まあ、二宮がそう言うのなら…。」

「たく、ほんとうららには甘いんだから。」

うらら「ただだよ、たかちゃんのこと、高野って呼び捨てにしてるの。」

まあ、たかちゃんを使っている悪いことしてきたもんねー♪

でもさあ、私も補修出る、じゃなくて、補修を取り消してくれれば良かったんだけどなー…。

まあ、そんなこんなで（どんなこんなで？）、私たちは補修に出ることになった。

第二話

アリス「ふわああああ。」

うらら「相変わらず眠そうね、アリスは。」

アリス「ちよっとお。うららだって今日たかちゃんの授業中寝てたでしょ？」

うらら「まあ、そうだけど。私は寝てたって高野には注意されないもん。」

祐「うわぁー。なんかムカつくー。」

アリス「それはそうと、何で補修を取り消しにしてくれなかったのよあ。うららが言えば、一発で補修取り消してくれたはずなのにい。」

「

うらら「別にいいじゃない。どうせ補修出たって寝るだけでしょ？」

祐「…まあ、そうだけど。」

うらら「ならいいじゃない。アリスはもう寝てるし。」

祐「…そうだな。寝る…か…。」

うらら「ほんと、寝るの早いわね。アリスと祐は。」

* * *

アリス「ん…あれ…？　ここ学校…？」

どう見ても学校だけど、何かが違う気がする…。

あ…ただ暗くなっただけ…？

って、今日は午前授業だったのに、もう5時…？

ニヤーツ

アリス「きゃっ！　…なんだ、猫か…。」

…なんで学校に猫がいるの？！

???「おとぎの国へ行きたくないかい？」

え？　今私に話しかけたの誰？

…うらら？ 祐？

アリス「ちよつと！ うらら、祐！ 何のつもりよお！ 私を怖がらせようって計画？！ その手にはのらないんだから……！！」

「……話しかけたのは私だ。」

アリス「だ、誰？」

部屋を見渡したって、私の他にはうららと祐と猫しか……猫？？

まさか、猫……？ なわけないよねえ……？

「……早く見る！ おい、こつちだつて！」

アリス「ええ？！」

紛れも無く、猫だわ。そう。ただの猫。

え、でも……ただの猫が喋るとかおかしくない？

猫「やつと気付いたか、アリス。」

アリス「どうして……私の名前を知ってるの……？」

猫「私はずつとお前を探していた。いや、魔界の者は皆、アリスのことを探しているのだ。」

アリス「何故……私を……？」

謎の猫は、にやりと笑った。猫は笑えるはずなのに……。

そして、いきなり私の目の前に白うさが現れ、私の腕を思いっきり引つ張った。

アリス「きゃっ……！！！」

白うさが「さあ、行こう。アリス。」

猫「おとぎの国へ……。」

アリス「ちよつ……！ ちよつと待つてよ……！ うららと祐はどうなるのよ……！！！」

猫「もちろん、二人だつて来るに決まってるだろ。」

アリス「きゃあああああああ……！！！！！」

――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5673h/>

おとぎの国のアリス

2010年10月28日06時28分発行